さざんか

かとう学園　宗像市立河東中学校
学校通信第27号（R5. 9. 19）

鳥が選んだ枝　枝が待っていた鳥

　私たちは枝を選んで飛びまわる鳥は注目して見ます。しかし、鳥を待っている枝という視点はなかなかありません。鳥を待つ枝という見方には思いが至りません。しかし、この句のように見方を変えれば世界の見え方が変わったり、新しい世界が発見できたりするのではないでしょうか。

　ほんの少しの発想の転換やちょっとした工夫で見ているものが変わります。

　今週は定期考査の週です。

　今までわからなかったことが、試験勉強でわかるようになる週。

　今までできなかったことが、試験勉強でできるようになる週。

　少し見方ややり方を変えて、新しい自分が発見できる週にしてみませんか。

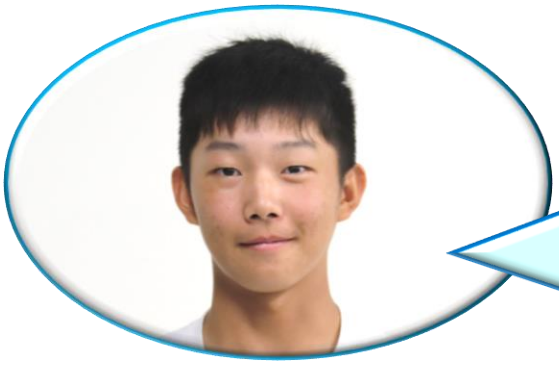
新人戦に向けて～部活動・クラブチームの決意表明 Part6

【　男子陸上部 藤井 洵太さん 】

　私たち河東中陸上部の目標は、筑前新人大会総合優勝、県大会総合優勝です。その目標を達成するためには、７年生の力も８年生の力も必要です。だから、一つ一つの練習で声を出して、みんなで切磋琢磨して頑張っていきます。また、チームの雰囲気を良くしてお互いに声をかけ合って助け合えるようなチームにしていきたいです。先輩たちを越えられるようにチーム一丸となって頑張っていきます。応援よろしくお願いします。

【　女子陸上部長距離　中園 桜子さん 】

　こんにちは。陸上部長距離女子キャプテンの中園桜子です。長距離女子の目標は、筑前駅伝優勝、県駅伝２位以内、九州駅伝出場、全員が区間賞をとることです。そのために、日々の練習を大切に、きつくてもみんなで声を出し合って「練習は本番のように。本番は練習のように。」を意識して頑張ります。9 年生は最後のレースとなるから、悔いの残らないようにし、みんなで心を一つにし全力でたすきをつないできます。応援よろしくお願いします。



【　宗像ストレイン　河野 稜生さん 】

　こんにちは、宗像ストレインに所属している河野稜生です。僕たちストレインは、２年前から活動が始まった新しいチームで河東中の人だけではなく、中央中や城山中などいろいろな中学校の人が集まって活動しています。僕たちストレインは今、全国までつながるとても大切な大会に出場しています。新チームになって初めての大会になっているので、チーム一丸となって頑張っています。この大会で県や九州、全国まで勝ち進んでいくので応援よろしくお願いします。

世の中の禍福（かふく）はあざなえる縄のごとし
～　『泣きばあさん』が泣かなくなったわけは？　～

　あなたにとって“良い”が誰かの“悪い”かもしれません。あなたにとって“悪い”が誰かの“良い”かもしれません。“良い”“悪い”は、時として立場や環境によって異なり逆転することがあります。
今回はそんな話を紹介します。

『泣きばあさん』

　京都の清水寺と銀閣寺の中間に南禅寺という臨済宗のお寺があります。その門前に“泣きばあさん”と呼ばれている人がいました。
　彼女は雨が降れば降ったで泣きました。天気がよければ晴れているので泣きました。雨でも晴れでもいつも泣いていました。
　南禅寺の和尚さんが不審に思い、こうおたずねになりました。
「いったい、おまえさんはなぜいつもそう泣くのかね？」
　するとおばあさんはこう答えました。
「私には、息子が二人おります。一人は三条ではきもの屋をやっております。もう一人は五条でかさ屋をやっています。
　良い天気の日には、かさ屋の方がさっぱり商売になりませんので、まことにかわいそうでなりません。
　また、雨降りになりますと、はきもの屋の方は少しも品物が売れませんので、困っているだろう。そう思いますと、泣くまいと思っても泣かずにはいられません」

　そこで和尚さんは、「なるほど、話を聞いてみれば一応はもっともなようであるが、そう考えるのはヘタじゃ。わしがひとつ、一生涯うれしくありがたく暮らせる方法を教えてしんぜよう」とおっしゃいました。
　おばあさんはひざをのりだして、「そんなけっこうなことがありますならば、ぜひともひとつお聞かせください」。

　和尚さんは次のように話したそうです。
「世の中の禍福（わざわいとしあわせ）はあざなえる縄のごとしというて、福と禍とは必ずあい伴うものである。世の中は、幸福ばかり続くものではなし。かといって不幸せばかりが続くものでもない。お前は不幸せな方ばかりを考えて、幸せの方をいっこうに考えないから、そのようにいつも泣いていることになる。
　天気の良い日は、今日は三条通りのはきもの屋は千客万来で目の回るほど繁盛すると思うがよい。雨の降る日には、今日は五条通りのかさ屋の店では品物が飛ぶように売れていると思うがよい。こう考えれば、晴れば晴れたでうれしいし、雨が降れば降ったでうれしいであろう」
　それ以降、泣きばあさんは泣くこともなく楽しく暮らしたということです。

　同じ事象であっても、見方によって良かったり悪かったりすることはたくさんあるものです。雨が降るということは、通学や通勤にとってはいやなことです。しかし、農家にとっては恵みの雨になります。ただ、農家でなくても雨の日には雨の日の良さや雨の日の楽しみ方があるものです。それを見つけている人が豊かな人なのかもしれません。
　最後に、幕末、江戸城の無血開城を演出した立役者である幕臣の山岡鉄舟が詠んだ歌を紹介しましょう。

晴れてよし　曇りてもよし　富士の山　もとの姿は　変らざりけり